

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第2回松阪市スポーツ推進計画策定委員会
2. 開 催 日 時	令和4年10月19日(水) 午後2時~午後4時15分
3. 開 催 場 所	松阪市教育委員会事務局 2階 教育委員会室
4. 出席者氏名	(委員) ◎ 平岡令孝、○ 寺本博美、別府孝文、 山田美江子、浦田安、小畑真里、前田昭徳、山中美幸、熊野佳幸、 玉利和美、鈴木寛子、(◎委員長 ○副委員長) (事務局) スポーツ課 若山課長、川上課長補佐、 山下主幹兼係長、鈴木主任、杉主任
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	0名
7. 担 当	松阪市教育委員会事務局 スポーツ課 若山・山下 TFL 0598-53-4402 FAX 0598-26-0133 e-mail sports.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

1. 松阪市スポーツ推進計画(案)について
2. その他

議事録

別紙

第2回松阪市スポーツ推進計画策定委員会議事録

I. 開催日時 令和4年10月19日(水) 午後2時から午後4時15分まで

II. 開催場所 松阪市教育委員会事務局 2階教育委員会室
(松阪市殿町1315番地3)

III. 参加者

【委員】 出席委員数/全委員数 11名/12名

<1号委員> 寺本博美様、平岡令孝様、別府孝文様

<2号委員> 浦田 安様、小畑真里様、前田昭徳様、山田美江子様、山中美幸様

<3号委員> 玉利和美様、熊野佳幸様

<4号委員> 鈴木寛子様

【事務局】 5名

若山スポーツ課長、川上スポーツ課長補佐、

山下スポーツ担当主幹兼スポーツ係長事務取扱、鈴木スポーツ係主任、杉同係主任

IV. 会議概要

1. 開会・挨拶

事務局(スポーツ担当主幹)の司会進行により開会。

会議の公開、会議録作成のため内容の録音、会議録の公開を行うことを説明。

スポーツ課長挨拶(内容略)

2. 議題

○「松阪市スポーツ推進計画の見直しについて」【資料2,3】

事務局(山下)より、【資料2及び3】を用いて、「運動スポーツに関する意識調査」結果の概要、推進計画の見直し部分について概要を説明。

○意見交換

委員長より、内容が非常に多いことから、計画書(案)の章別による質問、意見等を
お願いしたいとの説明あり。各委員意見なく、章別により進行することとなる。

【質疑応答等の概要】

○第1章にかかる質疑・意見等

委員長より、第1章についての意見・質疑を確認するが、意見なし。

○第2章にかかる質疑・意見等

運動・スポーツに関する市民意識調査結果に関し、以下の意見等あり

(委員長) コロナ禍で、スポーツをする人口が減少していると感じていたが、調査結果では増加しており意外。現に小中学生のスポーツをしている子どもたち

は、モチベーションが下がり競技をやめていくのではと心配していた。実際にはそのような例もあったようだが意外な結果である。

(委員) 私もウォーキングしているが、確かにウォーキングをしている人が多くなった。

朝の早い時間に歩いているが、私より早くから開始しているようである。これらの方と行き交うときには大きな声であいさつをされる方が多く、気持ちが良い。

ただ、歩道を歩くが場所によっては、雑草が茂っていることもあり、環境面の整備も必要だと思う。

(委員長) 歩道などの草により、車道を通行する自転車や人がある。除草の対応は、どこが行うことになるのか。

(事務局) みえ松阪マラソンコースにおいても、同様の事例が見受けられる。現状で、コースを試走される方もあり、事務局で課題としてとらえている。

除草作業は道路管理者が原則行うが、地域の方が除草に協力されることも多い状況。早く刈れば大会当日までには、また茂ってくるし、遅ければ、試走される方に迷惑がかかるので、除草をいつ行うかが問題。正直困っているが、マラソン本番にはきれいにしていくことを第一に進めていくことになると思う。

また、コース沿道を綺麗にする活動を行うマラソンボランティアもあり、感謝している。

(委員長) 走る方は、コースや景色がきれいであるかをよく見ており、次回参加の参考とする傾向にあるので、対応をお願いしたい。

(委員) この計画書(案)のブラッシュアップを今後行っていくのか。

(事務局) ブラッシュアップしていく。委員会では案の作成とし、政策会議や教育委員会、議会の委員会協議会での検討を進めていくほか、パブリックコメントも行い、計画書案を完成させていく予定。

(委員) 計画書(案)3ページの(1)人口の推計と将来推計、(2)年齢別人口割合の推計と将来推計については、それぞれ将来推計を示すグラフ等があれば示して、将来予測をよりわかりやすいように示した方がよい。また、グラフについては、色づかいを変えて見やすくしたり、割合の高い項目から並べるなどするとわかりやすいので修正した方がよい。計画書(案)30ページの表は左から順に新しいデータとなるよう並べ替える方がよい。計画書(案)31ページの上から5行目から9行目の標記については、文章

がわかり難いのでわかりやすい文章に改める方がよい。計画書（案）24ページの（3）松阪市スポーツ少年団主催によるスポーツイベントで、ア）松阪市スポーツ少年団種目別交流大会の標記については、この項目のみなのでア）の標記をつけるかどうかは事務局で再考いただきたい。

（事務局） 検討して修正対応します。

（委員） 一部表記の抜け（調査概要の説明欄の曜日抜け）の訂正いただきたい。グラフの色、結果表示を多い順に整理、余白ページへの写真や挿絵の挿入をされるとより良いものとなる。

（事務局） 検討して修正対応します。

（委員長） 第3章計画の体系で何か意見はありませんか。 → 特になし

（委員長） 第4章具体的な施策・取組で意見はありませんか。

（委員） 健康体操の指導をしているが、コロナ禍により公民館などの公共施設の施設利用ができなくなり、やめられた方もある。コロナ禍でも継続して施設を利用できるといいと思う。

（委員長） 日常の行うスポーツにより基礎体力が向上しても、中断すると元に戻るところか前以上に弱ってしまう。継続してスポーツができる対策を皆さんで考えてもらうことが必要であろう。

（事務局） 各競技団体では、With コロナ的环境下でも競技ができるよう工夫してもらっており、特に今年度になって多くの競技が実施されるようになった。関係団体とともに各種競技が実施できるように実践していきたい。

こうした状況にあるが、アンケート結果からもスポーツが地域づくりに必要であると実感した。来年にむけては With コロナでもスポーツがよりよくできるようになるのではないかと思う。継続してスポーツができるよう支援していきたい。

（委員長） この章では「子どものスポーツの機会の充実」や「学校体育の充実」が記載されているが、教育現場ではどんな状況か。

（委員） 子どもたちの中では、サッカーやソフトボール、ダンスなど専門競技に参加し、活躍している子どもがいるが、こうした子どもでも体育の授業では投げ方がいびつであったりする。体育授業以外での体力づくりが重要。私が子どもの時には、年長者の遊びを真似してみたりした。体育の授業以外のところで体力をつける遊びや環境が少ないのかなと思う。

（委員） できる子とできない子の体力格差が広がっている。レクリエーションなどでスポーツに親しむ流れにはあるが、外で体をつかって活動する時間が

少なくなっている。また、部活動も任意加入になり、さらに差が広がる原因でもある。

(委員長) スポーツをするアスリートの子どもと親との関係はどんな感じなのか。鈴木委員さんに尋ねたい。

(委員) 近所にトップアスリートの保護者の方がみえ、聞いてみると、もちろんいろいろな支援をしているが、その本人からすると「頑張ってるなあ」との地域の方々の声に支えられることがあるようで、さらに頑張ることができ、地域での声も大きくなってくるいい循環がある様子。

自分の子どもことになるが、コロナ禍で3年ほど大会が中止されたりしたが、代替えの大会に出場したり、気持ちを落とさず、その環境で何ができるのか子どもなりに考えている。やはり、頑張っていることを学校のホームページで紹介してもらったりして、地域の方々もこれを見て声かけしてくれ地域で支えてもらっている。「『する』、『見る』、『支える』」という考えには賛同する。子どもたちもオリンピックをみて、「あのようになりたい。」との声も聞く。地域や家庭でも支えていくことが必要。

また、学校から帰ってきてからの時間の過ごし方が昔と異なり、ゲームする時間が他市町とくらべ長い。勉強やスポーツに取り組めるようにしていくことが重要なのかと思う。

(委員長) 地域総合型スポーツクラブのAFLECさんはどのような状況か。

(委員) 250名ほどの会員があるが、65歳以上の高齢者が大半となっている。30・40歳代はすごく少ない。現役世代は仕事や家事への従事で少ないと思われる。

地域総合型スポーツクラブの認知度はやはり低い。行事などに参加された方が口コミで広げてもらい広まる感じ。子どもや親子を対象としたイベントは市の委託を受けて実施している。

(委員長) では、第5章に移りたいと思います。

(事務局) その前に、「スポーツ施設の整備・運営」の長寿命化計画の補足説明をさせていただきます。この計画は、スポーツ施設以外の施設でも多くが策定されているが、令和4年度末までにスポーツ施設の計画策定の期限が設定されている。内容は、スポーツ施設としての機能保持、集約化などの総量コントロール、学校施設の活用による施設不足の解消などを勘案し、施設のあり方の方向性を示すものとなる。この計画の策定がないと、今後の施設整備等に係る補助金や助成金の交付を受けられないこととなる。

また、施設の管理で、以前の計画では指定管理者制度の導入などを検討するのみであったが、市の公共施設等総合管理計画の中で、施設の削減計画があるが、以前は延べ床面積の削減を目指すものであったが、施設建設から廃止に至る間のすべてのコストを削減する方向に変更された。こうしたこともあり、指定管理者制度だけでなく PFI などいろいろな運営方法も検討していく必要があり内容を改めた。

(委員長) 市内の施設は 40 年以上経過し老朽化している。施設をどうしていくのか検討することは重要。目標は、東海大会ができるくらいの施設を整備してほしい。また、学校のグラウンドの排水対策も考えてあげてほしい。

5 章について話を移しますがいかかですか。ないですか。これで、全体を見た形となるが意見を皆さん述べてほしいので……

(委員) 全体的に抽象的な表現ばかりで具体的な話がない。長寿命化計画の説明があったのでその部分は納得した。他の部分も具体的なものを記載してほしい。

あと、学校の部活動の地域移行化の話が気になる。新聞では、地域移行に際しコーディネーターの設置を支援するとの記事があったが、日本のスポーツ界は学校の部活動があって、競技スポーツが成り立っていた。地域に、いろいろな団体に移行するとなると、いろいろな問題が出てくると思う。結局、そのような問題は学校現場が対応することになる。しっかり考えていかないと衰退していく。

私も含め高齢者は、健康づくりやスポーツに熱心だから取組に重点を置かなくてもいいのではないかと思う。状況だけ整備すればもっと盛り上がるだろう。子どもは、専門的な分野でトップになっても、玉井委員が言われたようにキャッチボールができない。やはり、バランスのいい育ち方をしていない。まんべんなく育つような遊びの延長での取組があってもよい。

(委員長) いろいろな競技は、もともと遊びから始まっている。小さい頃は、いろんなことをすることが大切。

(委員) 他の委員も言われたが、先輩後輩の上下関係がない。私の小さいときは、上の子が下の子へ遊び方やいろいろなことを教えてくれた。でも、今は指導者も保護者も子どももみんな対等になっている。こうしたこともあり、指導者と保護者の関係で子どもが辞めさせられたり、子ども指導者との関係でやめたりする。やはり、地域の方々が協力し合い育てていくことが大切。指導に当たっては上級生が下級生を指導する。そうしたことに視野を広げてほしい。

(委員) 今回のスポーツ・運動に関するアンケートにあたり、答えたが難しい設問があった。コロナ禍で制限された状況もあり答えにくかった。いろいろな設問の中でも、自分自身がスポーツ推進委員であるので、その認知度に係る回答をみると改めて低いと思った。地域の活動を地域のつながりに関して、以前は学校の体育祭に参加していたが、今はなくなってしまった。地域の活動として、住民自治協議会の活動で小学生を対象にニュースポーツを考え、つながりを持つようとしている。子どもたちにスポーツの楽しさを知ってほしい。

(副委員長) 体育とスポーツの違いは何か。塾と学校の違いと同じものかもしれないがこの違いを理解しておく必要がある。

次に、この計画は10年を区切りとした計画。6年を経過したが課題や成果が分かりにくい。具体的な話をするには金銭面などわからないと議論しにくい。今後の計画には、具体的な予算も記載したほうが良いのではないかと思う。

今回の改定は盛りだくさんであるが、残りの期間で何ができるのか。資料の赤字の部分だけやればよいのではないか。理由は、他の計画の期間と不一致であり、改定のたびに整合性がなくなるから。今できること、目先のことのみを考えてやったらよい。長寿命化計画は、予算の問題もあるだろうが、他の計画と期間をあわせて作成したほうが良いのではないか。

あと、調査の結果からもわかるように、体力に自信があるというのが、世代が上がるほど低下しているが、70歳以上の割合と30・50台とほぼ同じ。この30・50歳代の今後を考えた取組を高齢者の取組を減らし考えるべき。

(委員) 若い世代は働かなくては生活が成り立たないのが現実。この現実を認識しないとスポーツの推進ができない。

(副委員長) ここで、本を紹介したい。高松平藏さん著作の「ドイツの学校にはなぜ部活動がないのか」、「ドイツのスポーツ都市—健康に暮らせる街の作り方」では、やはり地域の活動に受け入れがあることが書かれている。今までの歴史もあるが、今後の参考までに紹介します。

(委員長) 私も昔のドイツに行ったときに驚きがあった。アスリートがみんなと一緒に活動していた。小さい子どもは、目標にできる環境にある。地域が子どもを育てていると実感した。

(委員) 地域総合型スポーツクラブが始まってから、かなりの年数が経過する。確かヨーロッパ型とか当時は言った。しかし、当時、私はこれに反対だった。日本の経過からもなじまない。学校の部活動を大切にしないと育たないと主張した。今は教師の働き方改革もあるが、いろんな競技をさせて、その中から得意な競

技を見つけ、育てていくというもので理念は素晴らしかったが・・・。

(副委員長) いわれる通り。子どもが教師であるが、就任してからその大変さを感じているが、部活動が好きと言っている。そのような先生は他にもいるだろう。単に地域に移行するのではなく、こういった先生にも助けてもらうことは必要。進めるのであれば、やはり人材が重要。考えなくてはいけない。そうなると大学生がよいが、地域にはなくなってしまった。他から連れてくることは可能。育てることが大切。学校教育の中では体育は必要。

慶応大学の偉い先生が授業から体育をなくしてはどうかとの提案があったが、多くが反対した。教職員から学生まで皆がダンスをした。これは、スポーツではなく体育ということで行った。部活はいい面ばかりではない。でもそればかりではない。縦のつながりや横のつながりもできる。

(委員) 現実はいかに動いているのか。

(委員) 地域移行は明確な方針が出ていない。80 億円、他に 20 億円予算化される見込み。本格的に取り組む意向のようです。いきなり地域に移行するものでもなく、教員の兼業兼職を認め、続けたい教員は続ける制度を検討しているようだ。

(委員長) 私も元教員であるが、日曜祭日がない。このため、地域の行事に参加できなかつたため、地域からは白い目で見られた。浦田委員も教員を辞めたら、すぐ自治会長になられた。スポーツをやっていると地域とのつながりが難しいところがある。

(委員長) 意見を取りまとめ、修正後の改革案を各委員へ示してほしい。

(事務局) お金の問題ですが、各種事業、取組は、総合計画に基づく行政評価により評価すると新たに記載した。また、計画の指標も見直した。指標は成果指標と活動指標に分け、活動指標は各種事業で使用されているものを使い、事業の進捗管理との整合性をとった。具体的な予算は、大卒の事業予算については実施計画において 3 年間隔で折衝することとなり、予算案については部長、二役ヒアリングを経て予算案としての議会の承認を得ることになる。委員の言われる通り、この計画に予算や事業のことを記載していく必要があるかどうかは、第 2 期の計画策定の中で検討していきたい。期間も 3 年、もしくは 10 年の間隔となるのかも同時に検討していくことになる。今後の 4 年に行うことは、資料の赤色の部分となる。ハードでは長寿命計画の策定、ソフトではスポーツと連動したまちづくりを目指す一大事業であるみえ松阪マラソンの定着、特に計画指標で目標をクリアできなかったボランティア参加率の向上をマラソンを通

じて取り組んでいきたいと考えている。

(委員長) 今後のスケジュールを説明してください。

(事務局) 検討内容が多いので、もう一回検討をお願いしたい。スケジュールですが、パブリックコメントを行うまでの手順に変更が生じたため、資料のとおり変更したい。

(委員長) ご都合が合わない方に申し訳ないのですが、委員長に一任ということで理解をお願いしたい（各委員の同意あり）

次回策定委員会は、11月2日（水）の午後7時からの実施となる。

《午後4時15分ごろ終了》